

宇宙基本計画工程表改訂に向けた提案

令和 7 年（2025 年）1 月 13 日

宇宙航空研究開発機構

宇宙科学研究所

有人宇宙技術部門

国際宇宙探査センター

「宇宙科学・探査ミッションの進捗状況について」資料に基づく計画変更は具体的には以下。

◆ 打上げ等の時期の変更

- ① マイクロ波背景放射偏光観測宇宙望遠鏡（LiteBIRD）FY2032打上げ → FY2036打上げ
- ② 小惑星アポフィス（Apophis）に対する国際協力による探査計画に向けた検討、調整の推進→ 地球接近小惑星アポフィス探査計画（RAMSES）への参画FY2028打上げ

◆ 従前記載していなかった事業を記載

- ① 惑星探査小型実験機（OPENS-0）

(3) 宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造

年度	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)	令和15年度以降	
JAXAの宇宙科学・探査ロードマップについて必要な見直しを行う[文部科学省]												
【宇宙物理学】 大型の海外計画への、存在感を持った形での参画を目指す。JAXAや宇宙物理学分野の研究者のコミュニティが一体となった協力体制の構築、国際動向の情報収集、長期戦略の立案による、技術開発を推進。国際的な大型計画とも相補的でかつ独創的・先鋭的な技術を活用し、科学的にユニークな中・小型のミッションの創出を目指す[文部科学省]												
戦略的に実施する中型計画に基づく衛星・探査機等（10年で3回）												
8 宇宙科学・探査 ①	X線分光 撮像衛星 (XRISM) の開発	運用 打上げ	マイクロ波背景放射偏光観測宇宙望遠鏡（LiteBIRD）の開発									
	①											
	主として公募により実施する小型計画に基づく衛星・探査機（2年に1回）											
	赤外線位置天文観測衛星（JASMINE）の開発											
戦略的海外共同計画												
	Nancy Grace Roman宇宙望遠鏡への参画											
	運用 打上げ											
	系外惑星大気赤外線分光サーベイ衛星計画（Ariel）への参画											
	運用 打上げ											

(3) 宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造

（3）宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造

宇宙基本計画工程表の改訂に向け、9章、10章についてJAXAとして変更が必要と考えるポイントを以下に示す。（参考：次頁以降に線表の現状版を示す）

関連項目：（3）宇宙科学・探査における新たな知と産業の想像

9 月面における持続的な有人活動

10 地球低軌道活動

【9 月面における持続的な有人活動】

- ① HTV-XによるISSへの物資補給機会を活用した技術実証の期間について、「10 地球低軌道」のHTV-Xの運用期間に合わせて2030年末まで延長（現行版は2028年末まで）。
- ② 月極域探査機（LUPEX）の打上げ年度を、ISROとの実施取決めに基づき、2026年度から2028年度に変更。また、それに伴い、LUPEXにより取得したデータをその後の月面着陸機に活用する「着陸地点の選定等に資する月面の各種データや技術の共有」の期間について、2028年度まで延長（現行版は2026年度まで）。

【10 地球低軌道活動】

- ③ HTV-X 6号機について、NASAとの国際調整等の状況等を踏まえ追記。

参考 (工程表改訂 JAXA案)

現行版 変更提案箇所表示

